

「読み」を意識した古今和歌集の指導

松浦弘幹

I. 単元のねらい

- ◎ 自らの力で読むことが困難な学習者が、授業の流れ（全体の読みの流れ）についていけること。
- ◎ 学習者が「古典文学を読む」ということを意識できるようにすること。
- ◎ 学習者が優れた読みを自ら構築できるようにすること。

文学作品を扱う授業の目標の一つとして、生徒それぞれの読みの保障ということがある。古典の授業でも同様である。だが、実際の場合にはそううまくはいかない。生徒の基礎学力（語彙力や文法力）不足のために内容がわからないといった、文学を楽しむ以前の段階でつまづく生徒が多いからである。

とはいえ、基礎学力の低い生徒を中心に考えると、深い読みのできる生徒が力を発揮する授業にならず、逆に読みの深まり、広がり重視した授業では基礎力習熟のための時間が、ある程度犠牲になる。こうした両極の生徒がそれぞれの力に応じて学習できる授業ができないかと思い、単元を考えてみた。

ところでまた、国語科の授業では主体的な、すぐれた読み手を育てることも目標とされる。そのために授業は、学習者が一つのすぐれた読みの過程を体験するように組織される。学習者の側から言えば、授業者の指導によって、また内発的な疑問・課題を持ち、そして解決していきながらまとまった一つの読みを構築することになる。

だが、これも実際には目標が達成されない場合が多い。その要因として、一つの発問・学習が全体の読みの中でどう位置づけられるのかを学習者が認識できていないということが挙げられる。学習者の中には、授業者の発問が全体の読みの中でどのような意味を持っているのかわからない

ままその発問で問われた事柄だけを考える、さらには古典を読んでいるのだという意識を持たないままただ質問に答えている、という学習者も存在するということである。そうした生徒が、全体の読みの流れに乗ることができ、そして自己の読みを構築できるようになれば、というののもまた本単元のねらいである。

なお今回は、以上の観点に基いた単元展開であるので、技巧的であり細かい読みが要求される「古今和歌集」の和歌を教材とした。

II. 単元の全体

1. 対象学年 高校一年（古典入門期後期）

2. 単元目標 ①古典文学作品を読むということを意識し、

実感する。

②古典文学作品を自分なりの力で読み、自

分自身の読み方を認識する。

③古典文学作品を自ら読むようになる。

3. 単元計画（全十一時間）

《第1次―自分の考えに従い、自分で誤りをただしながら

読む》

◎「秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる」による学習。

・「自分は秋が来たのをどのように感じたことがある

のか」、「今の時代で、どのように繊細、優美に秋を感じられるのか」の二点について、体験に基き、あるいは創作して書く。

・学習プリント（資料①参照）に従って学習する。

・自分自身が読んでいった過程を記しながら、空欄補充。出来たら授業者が点検。

・《鑑賞》欄の記述内容を発表する。

《第2次―一つの読みのモデルに従いながら読む》

◎「秋の野に人まつ虫の声すなり我かとゆきていざとぶらはむ」による学習。

・学習プリント（資料②参照）に従って学習する。

・一名が、空欄を補充しながら読みすすめる。

・最後の欄に、歌の主眼は「秋の情趣」にあるのか、「女性への恋心」にあるのかを考え、書く。

◎「花の色は移りにけりないたづらに我が身よにふるながめせしまに」による学習。

・学習プリント（資料③参照）に従って学習する。

・一名が、空欄を補充しながら読みすすめる。

・最後の欄に、《自分なりの鑑賞》、《今、僕たちは》（現代の世界と比べての鑑賞）を書く。

《第3次―自分の読みの流れを確認しながら読む》

◎「ひさかたの光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ」による学習。

・プリントに、自らの読みの流れを記しながら読む。

その際には、悩んだ点、結論を出した過程、辞書で調べた点なども、全て記す。(資料④参照)

《第4次―自らの読みに基いた学習プリントを作成する》

◎「思ひつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知りせば覺めざらましを」による学習。

- ・プリントに、自らの読みの流れを記しながら読む。
- ・一人ないし二人で、既習の学習プリントにならつて、学習プリントを作成する。
- ・学習プリントを相互批評する。(資料省略)
- ・相互批評であがつた問題を考える。
- ・学習者の作成した一編の学習プリント(資料⑤参照)を全体で取りあげて、学習をまとめる。
- ・鑑賞文を書く。

III. 指導の観点・留意事項

《第1次》では、指導者が作成した学習プリント(資料①参照)によって、各自のペースで学習を進めた。△資料①▽は、生徒が文法事項のどこで、どのような誤りを犯しやすいかを考え、それをもとにフロー・チャートの様式で作成したものである。生徒によって理解している、していない部分は異なるはずである。その個人差を認めながら学習を進めることはまた、学習者が自分自身の読みというものを自己認識・自己点検することにつながるであろう。

《第2次》では、指導者が作成した学習プリント(資料②、③参照)を、一人の生徒が空欄を埋めながら読み進めていく形態をとった。このプリントは、一読者を仮想し、彼の鑑賞の過程を、独話体で文章化したものである。試行錯誤しながら読み深めていく文章の流れを想定し、重要箇所を空欄にした。この学習では、一モデルに触れることで、日常的な自分自身の読みをより創造、あるいは想起させようとした。

そして《第3次》では、細かく書き残すことで自分なりの読みというものを明確に認識させようとした。

《第4次》は《第3次》からの発展学習であり、《第2次》の学習を参考にして学習プリントを作成させた。この学習プリントは他の学習者に行わせるということを目的に作成させたが、その作成の時が学習者にとつての最も有意義な学習時間であると考えられる。そして以後、相互批評し、そして集団全体で一つのプリントを取り上げて学習をまとめていくというように、一つの和歌について繰り返し考えることで、学習の定着を図っていった。

この《第4次》は、読みの力の優れている生徒が力を発揮できる場となるに違いない。多くの生徒は作成に苦労したであろうが、優れたプリントが出来なくとも、生徒個々が自分の能力に応じた発展学習をした、というように評価していきたい。

授業全体の中で、特に留意していたのは、学習が歌の鑑

賞を深めていくように組織されなければならないということであった。読んで、意味を知るためだけでなく、その文学世界を味わうために文法力を駆使して読む。そうした文学体験をさせることを常に目指しておかなければ古典学習の意味はない。そこで次のような観点で作成したプリントで学習を進め、また生徒には作成上の留意点を示した。(骨子のみ)

- ・ 学習者の初読の欄を設ける。
- ・ 作成者自身の読みの過程に基いて作成する。
- ・ 作成者自身がこの歌から感じたことを、文章化して内容に組み入れる。空欄を設けて、鑑賞として重要と思われる点を書かせるようにする。
- ・ 作成者自身の文体で文章化する。

ところで、単元全体を検討して、従来の古典学習から考えて最も抵抗があるのが、前半のプリントではないかと思われる。前半では、一つの読みの流れに従わせている。言わば学習者自身の読みの流れを無視しているわけである。だが、本単元は基本的には学力の優れない生徒を主眼に置いている。徹底してモデルに従わせると言う時間も必要ではないかと考えている。

また、理想に過ぎるが、この学習を礎にしてその後自らの力で読んでいけるようになればよいのではないかと考えた。かりに授業の中では豊かな読みができなくとも、その授業後に主体的に豊かに読んでいけるようになればそれもまた、一つの成果であろう。

IV. 学習プリントの批評の観点

全体で取り上げ、学習のまとめに用いたプリントの一例をA資料⑤Vに掲げている。学習者の三十編ほどのプリントから一つを選定するわけで、それはやはり優れたものでなくてはならない。その選定の観点は次の通りである。

- ④ おもしろい。工夫が見られる。
- ③ 作成者の鑑賞が組み入れられている。
- ② 読み方として優れている。
- ① 多少の内容の誤りは問題としない。

⑥の考え方は先に述べた通りであるが、例えばA資料⑤Vで見ると、この学習者は後半で自分自身の恋愛観に基いた文章を展開している。このように教材に触れて自分自身の考え方を引き出してくるということを大切にしたい。

◎については例えば次のようなものを評価した。

「最後の『を』を忘れてるよ。なんてつたつて、この『を』がメチャ大事。うーん。何て説明すればいいんだろう。たとえば現代語で『僕が鳥ならば、君のところは今すぐ飛んで行けるのになあ』という文がある。この文の最後の『の』になあ』という部分がある。この『を』にあたる所だよ。つまり、ここは、反実仮想の所だから、実際には夢とわからなくて目が覚めたんだ。だから、その目覚めたことに対して、『このまま目覚めなければよかったのになあ』と反実仮想で言ってるんだよ。この人は、自分が目覚めたことをすぐ後悔してるんだよ。」(傍線松浦)

△資料⑤▽にも同様の内容が見られるがこのように接続助詞「を」が「逆接確定条件」である、といった文法事項の理解にとどまらず、そこに込められた作者の思いまで捉えている。こうしたプリントを用いることで、他の学習者が同様な読み方をするようになってほしいと思う。

V. 反省と課題

他の多くの生徒のプリントは、文法事項中心の学習プリントになってしまっている。指示が徹底されていなかったこと、前半の学習でもっと繰り返し、また意識的に、鑑賞の姿勢を認識させる必要があったのではなからうか。

また時間がかかりすぎるといいうのも課題であろう。一カ

月の学習で、彼らは四首の和歌しか読んでいない。加えて最後のプリント作成にもかなりの時間と労力がかかっている。早く読めばいいというものでもなからうが、それこそ、生徒個々の実力に応じた展開ができればいいなとは考えている。今後の課題にしたい。

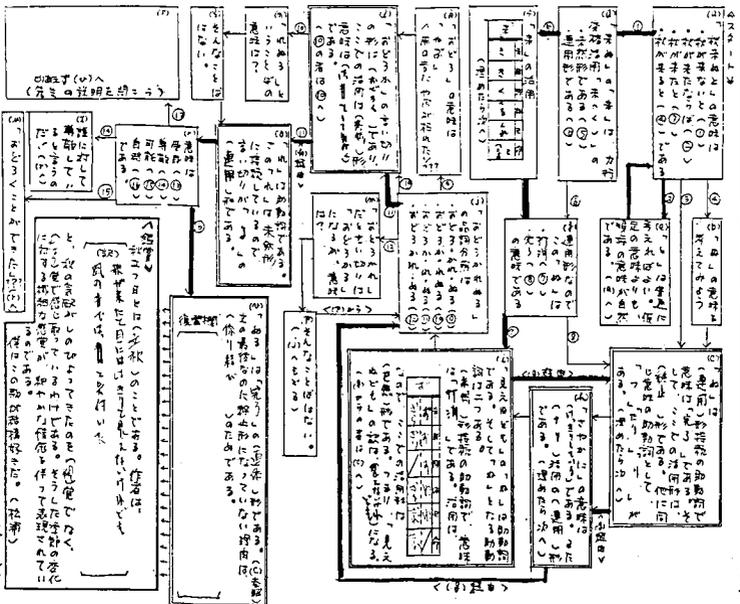
(広島大学附属福山中・高等学校)

資料①

四半(1) 銀行(1) 銀行

四半(1) 銀行(1) 銀行

銀行の歴史



資料②

四半(1) 銀行(1) 銀行

四半(1) 銀行(1) 銀行

銀行の歴史

銀行の歴史

銀行の起源

銀行の発展

銀行の種類

銀行の機能

銀行の役割

銀行の未来

銀行				
信用				
資本				
利益				
負債				
資産				

銀行の歴史

銀行の起源

銀行の発展

銀行の種類

銀行の機能

銀行の役割

銀行の未来

資料④

四年国語教科書プリント No. ④
 十国語の歌の味わい方 No. ④

「わたしの思考・鑑賞態度」

【課題】

① 「歌の所に 人まつ虫の 声すなり 我かとゆきて いまとよらほむ」

② 「秋の野にマユ」

松尾の鳴き声

「人」とは？

人々の虫の音か？

③ 「す——す——」

「この「す——す——」は、

× 「松尾」——松尾の鳴き声

○ 「秋の野」——秋の野の音

○ 「人」とは？

資料⑤ (1)

四年国語教科書プリント No. ⑤
 五国語の歌の味わい方 No. ⑤

「わたしの学習プリント」

【課題】

① 「わたしの思考・鑑賞態度」

② 「わたしの思考・鑑賞態度」

③ 「わたしの思考・鑑賞態度」

④ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑤ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑥ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑦ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑧ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑨ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑩ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑪ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑫ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑬ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑭ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑮ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑯ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑰ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑱ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑲ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑳ 「わたしの思考・鑑賞態度」

㉑ 「わたしの思考・鑑賞態度」

㉒ 「わたしの思考・鑑賞態度」

㉓ 「わたしの思考・鑑賞態度」

㉔ 「わたしの思考・鑑賞態度」

㉕ 「わたしの思考・鑑賞態度」

㉖ 「わたしの思考・鑑賞態度」

㉗ 「わたしの思考・鑑賞態度」

㉘ 「わたしの思考・鑑賞態度」

㉙ 「わたしの思考・鑑賞態度」

㉚ 「わたしの思考・鑑賞態度」

㉛ 「わたしの思考・鑑賞態度」

㉜ 「わたしの思考・鑑賞態度」

㉝ 「わたしの思考・鑑賞態度」

㉞ 「わたしの思考・鑑賞態度」

㉟ 「わたしの思考・鑑賞態度」

㊱ 「わたしの思考・鑑賞態度」

作成者	四年()組()番
学習者	()番
学年	()年
学期	()学期

小野 小野
 思考のつづきをばねはるる心知れば覚めどもまじき

① 「わたしの思考・鑑賞態度」

② 「わたしの思考・鑑賞態度」

③ 「わたしの思考・鑑賞態度」

④ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑤ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑥ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑦ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑧ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑨ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑩ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑪ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑫ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑬ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑭ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑮ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑯ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑰ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑱ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑲ 「わたしの思考・鑑賞態度」

⑳ 「わたしの思考・鑑賞態度」

㉑ 「わたしの思考・鑑賞態度」

資料⑤ (2)

① 多量の... 見たり...
 ② 「...」...
 ③ ...
 ④ ...

⑤ ...
 ⑥ ...
 ⑦ ...
 ⑧ ...

⑨ ...
 ⑩ ...

⑪ ...
 ⑫ ...

⑬ ...
 ⑭ ...

⑮ ...
 ⑯ ...

⑰ ...
 ⑱ ...

資料⑤ (3)

① ...
 ② ...
 ③ ...

④ ...
 ⑤ ...
 ⑥ ...

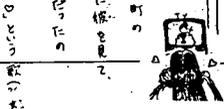
⑦ ...
 ⑧ ...
 ⑨ ...

⑩ ...
 ⑪ ...

⑫ ...
 ⑬ ...

⑭ ...
 ⑮ ...

⑯ ...
 ⑰ ...



⑱ ...
 ⑲ ...
 ⑳ ...
 ㉑ ...